

お知らせ

| | |
|-----|---|
| 雑誌名 | 日本文学誌要 |
| 巻 | 65 |
| ページ | 127-127 |
| 発行年 | 2002-03-24 |
| URL | http://hdl.handle.net/10114/00020207 |

からない。ただ、ここしばらくは、「ら抜き言葉」を使う人は抵抗なく使うし、使わない人は注意してでも使わない。といって、使用者も時には、あるいは語彙によって「られる可能」を用い、「ら抜き言葉」を誤用表現と誤っている人も、意識的に使用する作家のような場合ばかりでなく、全く無意識的に使用することもある。そのような混在状態が続くのではなからうか。

(注) 本稿は、二〇〇〇年度卒業論文の「Ⅰ. 文芸誌」の章を中心に据えて全体を縮約し、「Ⅱ. 漫画誌」「Ⅲ. TV番組」の二章を全文省略したものである。

(ふなき ひさのり・二〇〇一年卒)

寄稿要項

『日本文学誌要』編集部では会員諸氏の積極的な投稿をお待ち致しております。また、フロッピーで入稿される方は、次の二点に留意して下さい。

一、フロッピーをMS-DOSのテキストファイルの状態にすること(ただし、一太郎・ワード等、一般的に普及しているワープロソフトについては、そのままの状態で対応できるそうです。事前に編集部までお問い合わせ下さい)。

二、フロッピーとともに、プリントアウトした原稿を添えること。

次号以降の予定について

論文・四百字×三〇枚程度(規定枚数を大きく越えての

ご投稿はご遠慮下さい)

随想・四百字×六枚程度

×切 ① 四月二十五日(六六号)

② 十二月 十六日(六七号)〔予〕

宛先 〒一〇二―八一六〇

千代田区富士見二―十七―一 八〇年館内

法政大学国文学会 『日本文学誌要』編集部

☎ 〇三―三二六四―九七五二